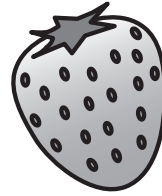
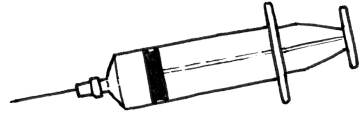
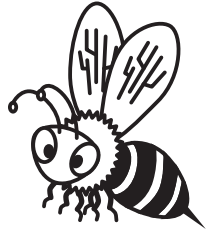
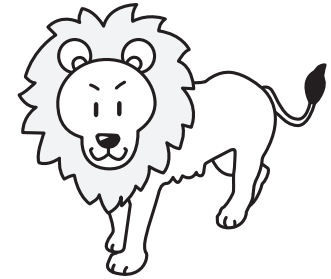
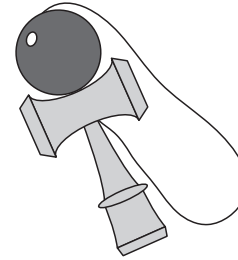
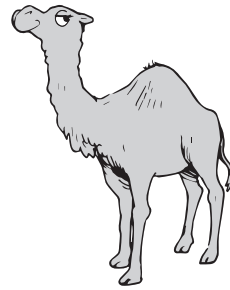
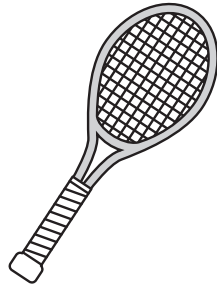
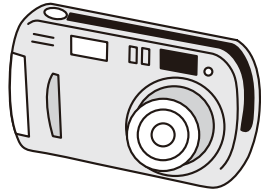


# 問題 1

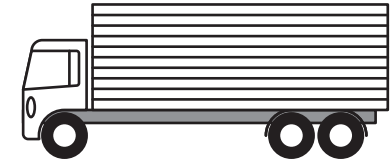
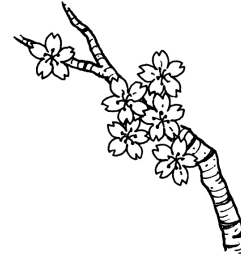
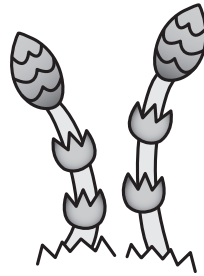
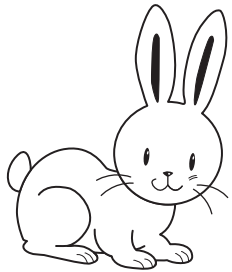
①



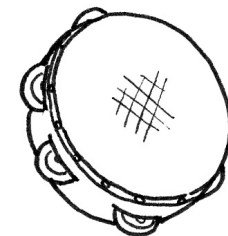
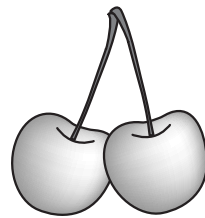
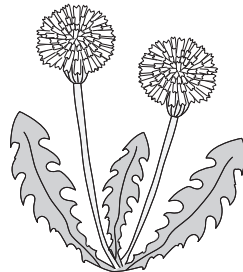
②



③

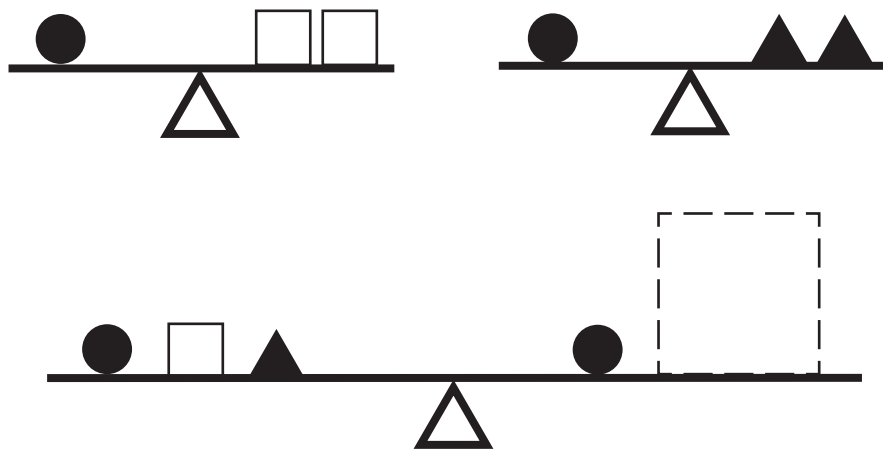


④

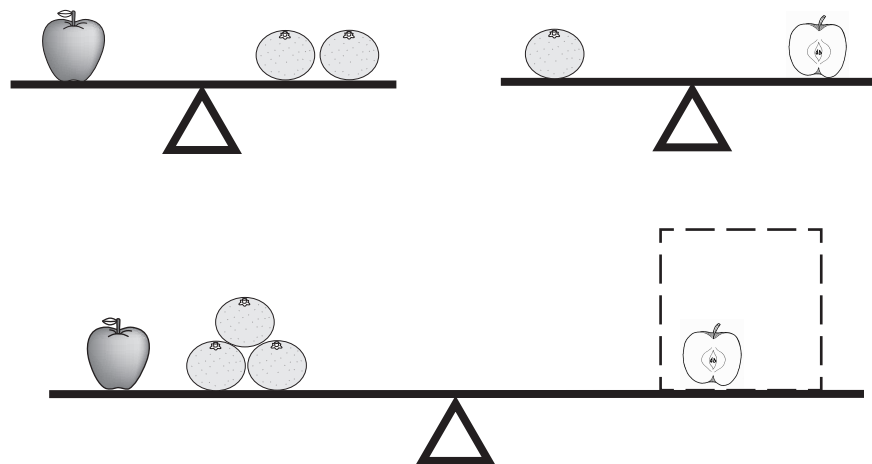


# 問題 9

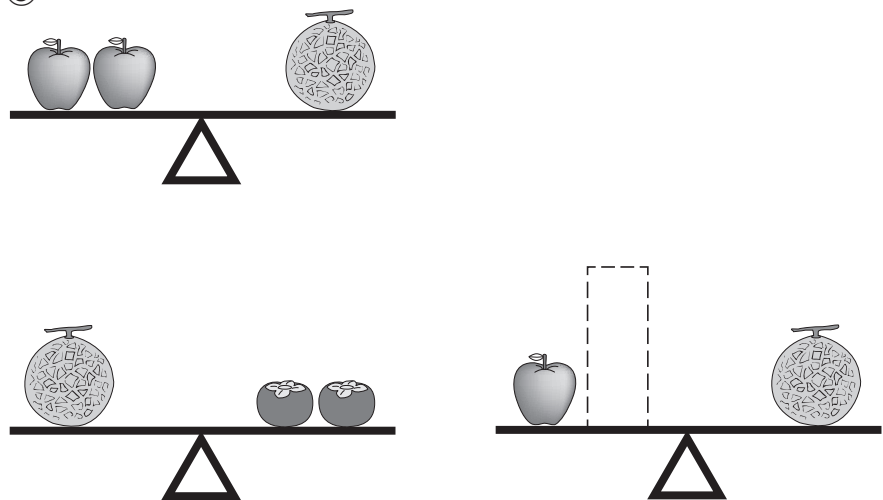
①



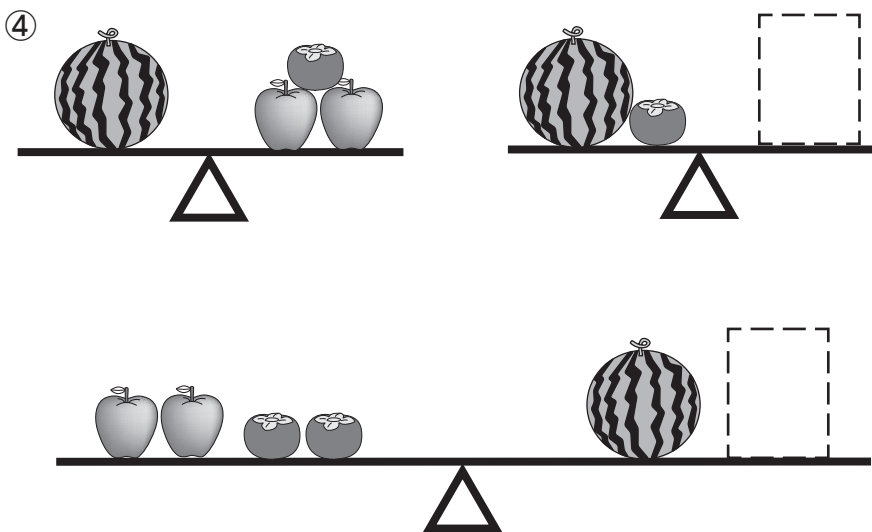
②



③



④



**問題9** 分野：数量（重さの比較）

〈解答〉 ①：● ②：○4つ ③：○2つ ④上：2、下：1



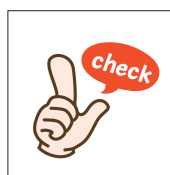
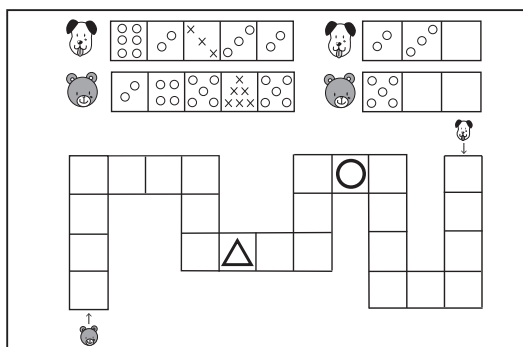
②の問題で注意することは、半分にしたリンゴを1つのものとして考えることです。「リンゴが半分」として考えることはお子さまには難しいので、1つの単位として考えさせてください。指導方法としては、おはじきなどの具体物を使って「リンゴ半分はおはじき1つ分、リンゴ1個はおはじき2つぶん、ミカンがリンゴ半分と同じ1つ分」というように、絵の上におはじきを置きながら考えると効果的です。つり合いの問題は、基準となるもの（1番軽いものにすると考えやすい）を1つ決めて、他のものを置き換えて考えます。左右にあるものが同じ数になるとつり合う、ということを考えながら学習を進めます。順序を追って同じ重さのものを探してみましょう。

【おすすめ問題集】

Jr・ウォッチャー15「比較」、58「比較②」、33「シーソー」

**問題10** 分野：複合（常識・知識）

〈解答〉 下図参照



①は、すごろくと同じ要領でマスを進めます。「すすむ」「もどる」さえ間違えなければ簡単に解けるでしょう。②は、じゃんけんゲームと同じような問題ですが、それぞれ相手方に行くまでの書き表し方が理解しにくい問題です。お互い5マス進めばよいわけです。それには自分たちが出したときのサイコロで5になるさいころを見つけます。イ又は2回目に出た2の目と4回目に出た3の目のさいころを書きます。あわせると5になります。クマは3回目に出た5を書きます。お子さまにはなかなかわかりづらい解答方法でしょう。このような問題にも対応できるよう、すでに溶ける問題の出題方法をアレンジするなどして、題意の把握をはかりましょう。

【おすすめ問題集】

Jr・ウォッチャー14「数える」、38「たし算・ひき算」、29「たし算・ひき算2」